

報告事項エ

高等学校教育改革促進事業について

高等学校教育改革促進事業について、別紙のとおり報告します。

令和8年5月15日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹



## 高等学校教育改革促進事業について

高校改革推進のパイロットケースとして先導拠点校を創設するための高校教育改革促進事業について、5月15日までの第3回公募に申請しました。

### 1 改革先導拠点校（申請校）

申請総額67.9億円＜補助上限62億円程度＞

#### 類型1：アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成（専門性高度化）

<p>鳥取工業高校</p> <p>※事業費概算： 28億5千万円</p>	<p>地域の持続的発展に貢献する技術を兼ね備え、工業の力で社会課題を解決する人材を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の学科横断に加え、高大、企業と連携した共同研究を行う場として「<b>DXラボ（新築）</b>」を整備</li> <li>・飛行技術に加え、プログラミングや開発などの技術も学ぶことが可能な「<b>ドローン飛行場（化学実習棟改修）</b>」を整備</li> <li>・熟練技術者の技術継承等を目的とした「<b>モーションキャプチャー関連機器</b>」の整備</li> </ul> 
<p>倉吉農業高校</p> <p>※事業費概算： 14億8千万円</p>	<p>テクノロジーを使いこなすデータを武器に経営を最適化するアグリマネージャーを育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最新機器の操作技術の習得とデータ分析能力の育成に力点を置いた「<b>スマート農業の推進</b>」</li> <li>・和牛王国鳥取を担う畜産人材育成のための「<b>牛舎整備（和牛舎新築、乳牛舎改修）</b>」整備</li> </ul> 

#### 類型2：理数系人材育成

<p>鳥取西高校</p> <p>※事業費概算： 12億7千万円</p>	<p>探究的学びを深め、地域をはじめ、日本や世界から鳥取を支える理数系人材を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産官学と連携した高度な研究拠点及び海外大学等との協働的探究活動の場として「<b>研究ラボ（第3校舎改修）</b>」を整備</li> <li>・夜間にしかできない観測や昼夜を通した長時間の継続的実験等が可能な「<b>セミナーハウス（既存施設改修）</b>」の整備</li> </ul> 
---	---

#### 類型3：多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

<p>境港総合技術高校</p> <p>※事業費概算： 11億9千万円</p>	<p>複数専門学科（水産、福祉、工業）を設置し、他学科の学びもできる総合選択制の強みと、専門高校ならではの実習ができる環境を活かし、様々な背景をもつ生徒の居場所となる環境を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅やコミュニケーションルーム（校内の教室とは異なる居場所）、他校でも実習を受けられることが可能な「<b>遠隔システム</b>」の整備</li> <li>・特色ある体験的学びを充実させるための専門施設・設備の更新・充実</li> </ul> 
--	--

<スケジュール>

- ・公募開始 令和8年2月13日
  - ・高校教育改革推進コンソーシアム第1回全体会開催 令和8年4月16日
  - ・交付申請（第3回） 令和8年5月15日
  - ・審査会によるヒアリング 令和8年5月29日
  - ・採択発表 令和8年6月下旬頃
- ※第3回までの採択結果を踏まえ、予算の範囲内で追加公募を行う可能性がある。

## 2 高校教育改革推進コンソーシアム 第1回全体会の概要

### (1) 日時

令和8年4月16日（木）午前10時30分～11時50分（県庁第2庁舎4階第22会議室）

### (2) 構成員

産業界	鳥取県商工会議所連合会、鳥取県商工会連合会、鳥取県中小企業団体中央会、鳥取県経営者協会、鳥取県農業協同組合中央会、鳥取県漁業協同組合、山陰合同銀行、鳥取銀行、新日本海新聞社、鳥取大学
県立学校	改革先導拠点校（鳥取工業、倉吉農業、鳥取西、境港総合技術）
県	人口戦略推進本部、商工労働部、農林水産部、県土整備部 鳥取県教育委員会

### (3) 議事及び意見概要

事前に質問を提示し、その回答内容をもとに、魅力化統括コーディネーターの廣田拓也氏の進行により議論を進めた。

※廣田拓也氏…文部科学省マイスターハイスクール事業伴走支援実績あり（福井、熊本、長崎、愛知など13校）。一社）鳥取県地域教育推進局アドバイザー。

#### 議事①：N-E.X.T.ハイスクール改革先導拠点校事業について

[質問] 各校の事業（案）について、どうしたら、もっと良い事業になると思いますか。  
各校の事業を実現するために、貴団体（貴社）として、どのような提案ができますか。

- ・子どもたちのメディアへの接触が自身の関心事に偏る傾向にあり、地元の人も文化も歴史も知らないまま成長するため、これでは将来、地元企業を就職先として選んでくれない。
- ・進学で大学に出た子が帰ってこないのが人口減少の一番の問題、産業界と連携した就職ルートの構築は不可欠である。進学校であっても職場を知るためのカリキュラムを導入すべき。
- ・県外との賃金格差は正は課題。地元採用企業への支援の仕組み等があると良い。
- ・現場では、DXやAIの利活用ができる人材はもとより、物事の善悪を判断する倫理観も大切であり、是非高校時代にそのような教育をお願いしたい。
- ・設備導入だけでは不十分であり、得られたデータを分析して、実際の社会課題へ落とし込むことを教えられるような人材として、企業・高等教育機関といった外部人材を活用してはどうか。
- ・大学では、複数の分野で横断的に課題解決に取り組むことによって、想像を超えるような人材づくりに取り組んでいる。今回の構想は高大連携の大きなチャンス、早期に共通の課題に向けて一緒に取り組みを進めたい。
- ・学校選択には目的と理由があり、それが一致しなければ本当の力を発揮することが出来ない。例えば、住環境など本当に行きたい学校に行けるような環境を作ることが必要。今回のプロジェクトは生徒が主役。

#### 議事②：地域を支える高度専門人材の育成について

[質問] 中学校卒業後の5年程度の学びについてどう思いますか。  
中学校卒業後5年程度の学びの手法としては、どのような手法が考えられますか。

- ・農業は、3年の学びでは生計が成り立つという実感を得にくい、その後の2年間で専門的な学習を行うことにより、やっていけるとい確信が持てるようになると思う。
- ・鳥取の地域性からも、農業高専構想は非常にユニークであり、全国から生徒を呼ぶ可能性がある。育てた人材をいかに地元で定着させるのが課題である。
- ・一方で、県外に出ても、地元の良い影響を与えてくれたり、将来的に県に還元してくれるような人材育成の考え方も必要。全て地元だけで完結しては、逆に魅力が無くなるのではないか。
- ・多くの生徒が中学卒業段階では進路が定まっていないことから、高校卒業時に再度選択の機会を設け、より深めていきたいと思う生徒には専攻科という選択肢もあるのではないか。
- ・地元で産業が無ければ起こしていきけるような人材を、高校、大学ではなく幼少期から様々な産業において意識づけした育成が必要。

# [鳥取県] 未来を創る人材育成推進計画

## 鳥取県立高校のおかれている状況

- ・ 県立高校の数は全国最少の24校
- ・ 平成元年（1989年）以降の本県中学校卒業生数は平成元年3月の9,657人をピークに減少傾向で、令和7年3月には4,892人とおよそ半減
- ・ 令和22年度（2040年度）には3,000人程度になる（令和7年5月1日時点推計）

### 県立高校再編計画

R6.3再編基本方針策定  
R7.3基本計画<前期>策定

期間		収容定員減		公表時期
前期	R8~R12	△240人	R9.4.1実施分	△120人程度 R7.3公表済
			R12.4.1実施分	△120人程度 R10.10公表予定
後期	R13~R17	△480人（統合再編も視野）		R10.10公表予定



### 再編のポイント

<前期>

専門性高度化及び規模の適正化

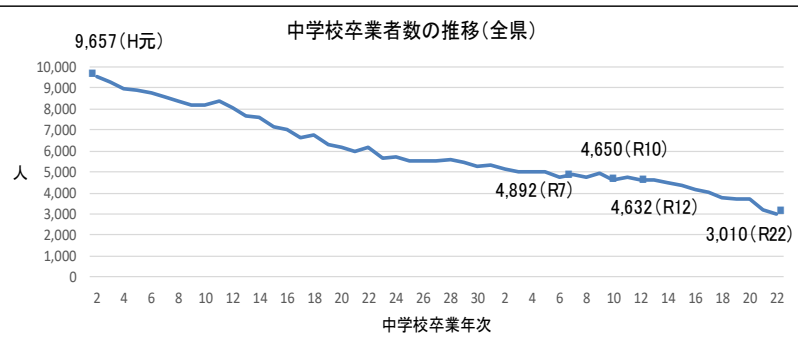
<後期>

普通科を加えた総合選択制高校の設置

### 学科を超えた学びを推進していきます （総合選択制高校のメリット）

異なる専門学科が複数ある学校において、自分が所属する学科の学習だけでなく、興味・関心に応じて学科の枠を超え、他の学科の学習をすることができます。

- 他学科の科目を学習することで、幅広い知識と柔軟な発想を身に付けることが期待できます。
- 他学科の生徒との関わりの中で、様々な知識、経験に触れ、切磋琢磨する環境となります。



## 鳥取県の課題と改革目標

### DX・AX化への対応（社会の変化に対応した人材育成）

- ・ 人手不足の中においても高い付加価値を効率的に創造し続けられる経営への転換が必要
- ・ 県内専門高校の施設設備は産業界で実際に使われている機器に対応していない
- ・ 特に近年のDX化の進展は目覚ましく、高校における学習環境のアップデートが急務

### 理数系人材育成に向けた環境整備

- ・ 高度な研究機器をもつ企業や大学が少なく、高度実験設備の不備や就職先として理系研究職がないことによるロールモデルの不在を背景に、生徒の理数系進路に対する職業観が育まれにくい
- ・ 新たな価値観を生み出す多様な挑戦、企業の高度化に対応するための理数系人材育成が急務

### 多様な教育ニーズへの対応

- ・ 生徒数が減少する中における学校運営は、多様な科目設定が困難になるなど生徒の選択肢が狭くなる
- ・ 多様化する生徒の学習ニーズに応えるために、令和13年度以降の後期再編計画においては、「普通科を加えた総合選択制高校」の設置を検討し、個々の能力を最大限伸ばすための教育課程の編成を実施

# [鳥取県] 高校教育改革推進コンソーシアム (イメージ)

## 県立高校がめざす姿

自分の夢や目標の実現に向けた可能性を広げるために  
「社会とつながり 体験する 選択できる 新しい学び」を創造します

生徒一人一人の資質・能力、可能性を最大限伸ばす学びの推進

将来の地域を支える人材を育てるふるさとキャリア教育の推進

鳥取県や日本、世界に貢献できる力を育成する学びの推進

## コンソーシアム設置のねらい

社会の変化が目まぐるしく、将来を正確に予測することが難しい中において、教育委員会や県立高校だけでなく、知事や関係部局、産業界、高等教育機関等地域と十分に連携・協働し、人材育成を進めます。

## 県教育委員会の体制、役割

- ・高等学校課 (主管課)
- ・全体調整、教育課程の検討
- ・教育総務課・大学連携
- ・教育環境課・施設設備整備
- ・教育人材開発課・人事配置
- ・教育DX推進課・教育のDX化
- ・特別支援教育課・特別支援教育の充実
- ・小中学校課・中学校における進路指導

## ■コーディネート体制■

(ノウハウを持った団体による支援) コーディネーターが指導主事、学校教職員に伴走・支援することで産業界との連携を推進します。

## 高等教育機関の役割

教育活動の実施において連携・支援する (大学のリソースの提供等)

高等教育機関 鳥取大学  
公立鳥取環境大学  
鳥取看護大学  
鳥取短期大学

## 全体会

県立高校

鳥取県教育委員会

鳥取県

人口戦略本部  
商工労働部  
農林水産部  
県土整備部

地域、日本、世界を支える  
人材育成



産業界 (企業等)

商工団体、金融機関、企業等

専門性高度化

地域連携 多様な学び  
理数系 人材育成

## 理数系人材育成部会

- 連携校 鳥取東、倉吉東、倉吉西、米子東、米子西
- 大学、企業等 鳥取大学、鳥取看護大学、鳥取短期大学 等
- 自治体 鳥取市

鳥取西  
高校

## 地域連携 多様な学習ニーズ部会

- 連携校 鳥取緑風、青谷、岩美、八頭、倉吉総合産業、鳥取中央育英、米子、米子南、米子白鳳、境、日野
- 大学、企業等 公立鳥取環境大学、鳥取看護大学、鳥取短期大学 地元企業 等
- 自治体 境港市

境港  
総合技術  
高校

## 地域全体で人材育成を推進

一校完結自前主義から脱却し、様々な分野の様々な人とのかかわりの中での教育活動の実施

地域

市町村



コミュニティ・スクール



県立高校立地自治体

## 専門性高度化部会

工業  
分科会

農林  
分科会

改革先導拠点校

鳥取工業  
高校

倉吉農業  
高校

- 連携校 鳥取商業、鳥取湖陵、智頭農林、八頭、倉吉総合産業、米子工業
- 大学、企業等 鳥取大学、地元企業 等
- 自治体 鳥取市、倉吉市

農業の基礎・基本の学びに加え、実社会で用いられている最先端施設・設備による実践的な学びを行うことで、農業経営に関する知識・技術を実践的に学び、実社会で活躍できる持続可能な農業経営を担う人材を育てます。

主な連携校 鳥取湖陵高校 智頭農林高校

## 事業内容

### ■スマート農業のさらなる推進

#### －鳥取県の農業の現状・課題－

- ・過去5年間で基幹的農業従事者数は約32%減少
- ・65歳以上の占める割合は79.6%（全国平均を約10%上回る）
- ・担い手不足、高齢化による労働力の確保や熟練者の引退に伴う技術不足への対応が深刻な課題

⇒最先端の機器を活用した農業技術を実習等で身に付け、農業のイメージを「クリエイティブで最先端な産業」として再定義し、テクノロジーを使いこなし、データを武器に経営を最適化する新たな農業のかたちを創出できるアグリマネージャーの育成をめざします。

#### [主な整備内容]

- ・遠隔制御装置導入による圃場監視
- ・温室等の自動環境制御装置
- ・ロボット草刈機、自動追従型運搬車
- ・防除、肥培管理センシングシステム
- ・コントロールルーム
- ・VR/ARによる農業機械等操作習得支援システム 等



### ■和牛飼育の学びの充実

#### －鳥取県の畜産の現状・課題－

- ・農業産出額のうち、畜産が占める割合は41%と比較的高い割合を占める。
- ・後継者不足、高齢化等の課題を抱え、若く優秀な人材の確保やその人材を育成する体制が必要

⇒和牛牛舎を整備することにより、最先端の技術を活用しながら繁殖から育成までの技術を身に付け、即戦力となる次世代の畜産の担い手を育成します。また、乳牛・和牛それぞれの飼育技術を学ぶことで、酪農・和牛（繁殖・肥育）の経営 にも対応できる実践的な力を身に付けます。

#### [主な整備内容]

- ・自動除糞システム
- ・活動監視システム、分娩監視システム
- ・超音波妊娠診断装置
- ・自動調整照明システム
- ・餌寄せロボット 等



### 地域と連携した人材育成の推進

- ・地域の農業関係者を講師として招へいし、実践的な技術を学ぶ機会を得るとともに、牛舎やスマート農業機器を地域に開放し、地域農業を先導する地域拠点とします。

（生徒は教えられること、教えることの両面を体験し、より深い理解や実践力を身に付けます。）

- ・高等教育機関と連携した共同研究等をとおし、高度な理論や学びを実践するとともに、次世代の農業運営・経営の開拓に挑戦します。
- ・高校、地元企業、高等教育機関、行政が連携し、次世代農業の実現及びその運営・経営に必要な人材育成を進めます。

#### 関係機関

鳥取大学、鳥取県農業大学校、JA、鳥取県畜産試験場、農林水産部、倉吉市、地元企業、地元中学校 等

生徒の興味関心に応じた高度な探究ができるよう、また海外大学等と協働的探究活動を推進するため、施設環境を整えます。  
それにより、課題解決能力やコミュニケーション能力を高め、世界の未来成長分野で活躍できるグローバル人材、サイエンティストを育てます。

主な連携校 鳥取東高校 倉吉東高校 米子東高校

## 事業内容

### ー鳥取県の現状・課題ー

- ・高度な機器をもつ企業や大学に限られ、また研究職等理数系職業が少なく、生徒の理数進路に対する職業観が育まれにくい。
- ⇒先進的な取組や実際に研究者として活躍される方との関わりの中で、理数系職業への関心を高めます。

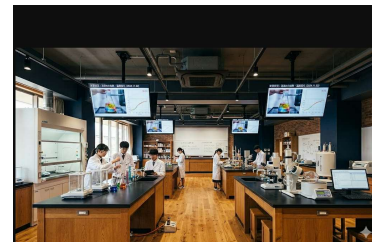
- ・グローバル体験の不足
- ⇒県外や海外の先進的な高いレベルの取組に触れることで、将来の理数系人材を育成する必要があります。海外生徒との共同研究等により、幅広いグローバルな視点をもった世界でも活躍できる人材を育成していきます。

### ■STEAMラボの整備

宿泊施設や共同研究のためのコワーキングスペースを兼ね備えた高度研究ラボを整備します。研究者等を招へいし、共同研修、共同研究をすることで学習内容を深めます。

[主な整備内容]

- ・バイオ工学系機器（遠心分離機等）、3Dプリンタ、レーザー加工機等の導入
- ・情報系機器の整備（高性能パソコン等）



### 地域と連携した人材育成の推進

#### ■海外連携、共同研究

- ・海外大学、海外高校（セントマイケルズ大学、春川高校等）との共同研究
- ・テクノロジー、スタートアップ企業との連携
- ・語学研修プログラムの構築

#### ■地元企業、大学との産官学連携プログラムの構築

- ・探究活動における連携（講師、専門家派遣）
- ・課題研究、共同研究のコンソーシアム構築

#### ■他校との共同研究

- ・互いの研究成果を発表するコンペティション等の開催

#### ■グローバルビジネスアントレプレナーシップ教育の推進

- ・日本や海外企業と連携し、生徒が考案したアイデアのビジネス化

#### ■探究アドバイザーの配置

- ・生徒がより高度で幅広い知見を基に探究活動を推進できるよう、助言できる人材を配置（卒業生、地域の専門家等）

#### ■近隣小学校、中学校への開放

- ・地域に開放し、学校の枠を超えた探究活動の実施
- ・近隣小中学校児童生徒に対して数学・理科実験教室の開催
- ・小中学生の頃から高度研究を体験することで、理数系人材育成のすそ野を広げる

### 関係機関との連携

鳥取大学、鳥取看護大学、鳥取短期大学、海外大学、海外高校、産業技術センター、金融機関、鳥取市、地元企業、県外企業 等

類型3  
多様な学習  
ニーズに  
対応した  
教育機会の  
確保

類型1  
専門性  
高度化

# 様々な背景を持つ生徒の居場所づくりと地域を教材とした体験を伴う 多様な教育活動とおしたすべての生徒の自己実現と進路実現

(地域との連携・協働による学力向上・学習支援)

境港総合技術高校  
(水産/工業/福祉)

複数専門学科を設置（水産、工業、福祉）し、自分の所属する学科以外の学びもできる総合選択制高校としての強みと、専門高校ならではの実習（体験を伴う学び）ができる環境を活かし、地域や産業界と密に連携し、様々な背景をもつ生徒の居場所となる環境づくりをめざします。

主な連携校 境高校 日野高校 鳥取緑風高校 米子白鳳高校

## 共同教育課程の設定を検討します

県内どの学校でも、多様で専門的な学びが受けられる環境をつくります



## 事業内容

### ー鳥取県の現状・課題ー

・中学校時代から不登校傾向の生徒が他校と比較し多い傾向

⇒専門高校ならではの様々な実習（体験を伴う学び）をとおして、学びに対する興味関心を高め、自らの適性を見つける環境を活かし、学びに向かうきっかけや学びを深める環境、居場所となる環境を整備し、卒業後、社会で活躍できる生徒を育成します。

## ■多様な背景をもつ生徒の居場所づくり

### ステップ1 実習現場と自宅をつなぐ

特に不登校傾向がある生徒に、自宅にいたがらでも専門的学びができる環境を提供し、学びのきっかけをつくります。

[主な整備内容]

- ・遠隔配信システムの整備
- ・コミュニケーションルームの整備

### ステップ2 実習現場とコミュニケーションルームをつなぐ

体験的学びへの興味から、登校につながった生徒に対して、まずは、教室とは異なる居場所（コミュニケーションルーム）を提供し、実際の実習への参加に道筋をつけます。

### ステップ3 実習現場と教室をつなぐ

特色ある専門的学びを他校へ広げ、県全体へ質の高い専門学科の学びを広げます。

## 地域と連携した人材育成の推進

### ■卒業後の進路に対するイメージを持たせ、卒業後も自立して生活し、社会を担う人材育成

#### ◇水産のまち境港に根差した学びの推進

[主な整備内容]

- ・活魚水槽（地元企業との陸上養殖研究）
- ・水中ドローンデータ活用研究施設（他の高校や高等教育機関との共同研究）
- ・高度品質管理機器の導入、新商品開発企画室の整備（メルカリと協働した高付加価値化研究）

#### ◇体験的教育活動の充実、環境整備

[主な整備内容]

- ・特別支援学校や介護施設と連携した介護実習の実施のための介護実習施設整備、エレベーター設置 等（地域開放、地域交流の拠点）
- ・地元産業界と連携した自動車整備に係る学びのための次世代モビリティ実習棟の新築、デジタル製造拠点の整備 等

## 地域連携・協働による学力向上・学習支援

地域の産業界や専門人材の協力を得て、資格取得に向けたサポート体制や企業実習の機会を提供します。

### 関係機関との連携

公立鳥取環境大学、鳥取看護大学、鳥取短期大学、漁協、新日本海新聞社、地元企業、境港市 等

(追加提案)

今後多くの土木インフラが更新時期を迎え、それらの維持管理を効率的に行うためには人材の確保・育成、技術承継が不可欠です。高齢化や担い手不足を背景に、建設業界等ではICTを活用した技術が一般的となっており、作業工程のAI化やICT化に対応するため、学習内容の充実をはかり、実社会に対応した人材育成を推進します。

主な連携校 八頭高校 倉吉総合産業高校 米子工業高校

### 共同教育課程の設定を検討します

普通科高校等においても、専門学科の学びができることを検討します。

## 事業内容

### ■産業界の実態に応じた教育課程の実施

#### ◇ドローン技術（操作、プログラミング、データ分析）に関する学びの推進

##### －鳥取県の産業界の現状・課題－

- ・近年、産業界においてドローンを用いる業務が多々あり、即戦力となる人材育成が急務（ドローンを活用した画像撮影による施設・設備の劣化調査、測量業務・インフラ整備）
- ・民間ドローンスクールでは飛行技術の習得に特化したものが多いが、社会ではプログラミングや開発が人材が求められている

⇒様々な学科において、様々な視点でドローン学習に取り組み、即戦力となるドローン技術者を育成します。

##### [主な整備内容]

- ・室内ドローン飛行場
- ・実習用ドローン



#### ◇実社会で用いられる設備による実践的学びの推進

##### －鳥取県の産業界の現状・課題－

- ・人口減少の中、どの分野においてもDX、データ活用は必須スキルでありその活用は加速度的に進んでいる
- ・最新機器の活用やDX化の推進により、生産効率を上げていくことが急務
- ・産業界や高等教育機関と連携した共同研究や、学科横断の学習に取り組みたいが校内にはそのスペースがない

⇒最新機器の導入により、次世代の技術者として不可欠な力を育成します。

##### [主な整備内容]

- ・DX・AXラボの整備
- ・産業界で実際に用いられている高度最新機器の導入



### ■地域の持続的発展への貢献

##### －鳥取県の産業界の現状・課題－

- ・製造業や建設業現場では高齢化が進行し、若手入職者が減少傾向
- ・熟練技術者の退職者が増加し、それに伴う技術の継承が課題
- ・文化・スポーツにおいても技術承継が必要

⇒熟練技術をDX技術でデジタル化することで様々な課題解決に向けて取り組む力を育みます。

##### [主な整備内容]

- ・モーションキャプチャ



### 地域人材育成拠点

地域の小中学校や起業にも施設を開放し、地域全体で工業人材（理数系人材）育成に取り組めます。

### 関係機関との連携

鳥取大学、鳥取県産業技術センター、鳥取県建設業協会、鳥取県測量設計業協会、鳥取県産業人材育成センター、県土整備部、地元企業、鳥取市 等